



保育随想

★ 願い！

人は昔の事は冷静に分析もできる。そして、喜びに浸れたり悔いが残ったりしながら他人事のように笑って過ごせる様に作られて居ることも不思議です。今、生きている現実には、その割に鈍感で現実が受け止められないで、ある種の現実から逃避しながら時間のみが過ぎてしまう現実もあります。何とかなる！時間が経てば状況は変わる！世の中も変わる！と生きる方法も手立ても見付からないままに過ごすのです。生きることは、選択と整理の繰り返しかと思えます。精一杯に考えを出して、誰もが生きて来ました。後から笑って話せる、思い出として受け止められる様に成るのですが、大事なところは、後からではなく、今、将来に悔いを残さない生き方をしたいのです。人間は時々自分の生き方や今の自分に立ち返ることに出会います。今日も幼稚園に、絶対的に生きる価値観を抱いておられる三人の方がお出でに成りました。私もあのようによく在りたいと思うのですが、残念ながら共感できずにお別れをしました。仕事と言われる時間とそうでない時間と区別がなく生活している人がおります。しかも、その生き方が苦しくもなく、楽しさも十分に得て暮らして居るのです。それは、あなたの天職です！と言われたそうです。生きる達人かも知れませんね。過去にどのような栄光があっても、今が充実して居なければ、開花した花も萎んでしまいます。私たちが実感できる時間は、この瞬間しかないのです。だから、どんなに老いても自分を鼓舞し、今、この瞬間を充実させる意思をもって生きて行かなければ、過去もこれから迎える未来にも続かないのです。一人では生きられない私達ですから、今までもそうであったように周りの人の支えが有った毎日の生活です。家族もそうです。共に生きる職場の人達から、ご縁のある人たち総てが必要なのです。そういう人たちの中で生きられる生活から、幸せも喜びも、そして生きがいも生れて来て呉れていることも実感します。人間は毎日毎日、寿司や高級肉を食べる日が続くと、いくら贅沢なご馳走でも、慣れてしまえば感激も満足も感じない、ただの食べ物と思うようになります。また砂漠に数日もさまよって、のどが乾き切った時に与えられた水は、たとえ生温かく濁って居たとしても、それは今までに体験した最高に美味しい水に成る例えが有ります。改めて、今、自分が置かれている所に立ち止まって考えることは、幾らかでも楽になる為にも必要な時間か思うのです。人間は目の前の事が全てに成りますが、いろいろな体験や状況に置かれることは、一生懸命に身を守り周囲を守る考えが浮かんで来るものです。それも周囲の力を借りて道が開けるものだと思いますので、一生懸命に生きている人に相談し、力を借りることで同じところに留まらずに済みます。

若い頃から、世の中で頼みごとをされる人は偉い人！と言う価値観を抱いてきました。振り返りましても、お願いごとの多い人生でありました。頼みごとの繰り返しの歩みでありました。周囲には立派な方が多くおられます。周囲の方々のお力で、きっと願いは叶います！頼まれた方は人生を掛けて力に成ってくれます。



第7号

令和4年11月30日

庄和すずらん幼稚園

保育随想

★ 人生の応援歌！

晩秋を迎えております。木々の葉の紅葉も高所から平野にまで降りてきて、それぞれが冬支度をしている気配も感じます。私達も今年もあと一か月で、お仕舞いに成って居ることを一方で思いながら、一年が早い、益々早くなった！と思う時期ですね。

“年年歳歳花相似たり、歳歳年年人同じからず”と昔から言われる言葉であります。季節は幾らかの遅い早いはあるけれど、同じように季節は必ず回って来ます。しかし、人の世は没する者があれば生まれる者があり、年と共に変わってゆく。人の世は自然の営みと同じようにはいかないことを言い表しています。私たちは、野に咲く花も自然を作る木々にも、その役目を一生懸命果たして美しい花を咲かせる姿に、新緑の緑に、そして紅葉して落葉する姿に、いとおしさを感じ、畏敬の念も抱きます。この自然の営みに囲まれて沢山の事を学び体験して、喜びも悲しみも、はかなさも貰いながら前向きに生活出来ていることを感じます。自然に支えられて、穏やかに平和に過ごさせて貰っているだけで、十分なのであります。季節が変わる度に今ある自分を整えたり前向きに成れるのです。親しい友や家族との旅も、そんな喜びを見付け、自分を取り戻す時間とも言えるかと思えます。私は小学校の6年生の終わりにカメラを買って貰いました。嬉しくて目に入るものを撮り続けてきました。ある時代は、働く姿をテーマに、母親は勿論ですが、南桜井駅前の商店の人達にもレンズを向けて、撮りまくりました。成人してからも、その当時の人から、ひろっさんに撮ってもらった写真、仏様に飾ってあるよ！と言われて嬉しかったことも思い出に成っています。社会人に成ってもカメラは携行品の一つで、この幼稚園に関わってからは、仕事は写真？周囲からも思われて居たことにも甘んじて受けておりました。お付き合いの旅でカメラを持たずに出かけると、あれ、今日はカメラは持って来なかったの？と聞かれたり、自分でも失敗した！と旅先で思ったことが何度かありました。私の弟が周囲に、この人は撮りマーと言われてるんで！と紹介をする時があります。少々、不本意な所は有りますが、これも甘んじて受け流しております。写真はね、その人の今を撮るんです！その人の喜びの心を撮るんです！形に残してあげるんです！プリントアウトの作業に出て来る一人ひとりが、とても素敵なんです。その人が今まで以上に好きになれますよ！愛おしい気もちにも成るもんです。長く幼稚園でお世話になった南桜井駅前が開業していた蓮実健三さんが、写真は良いよ、撮る時につこり、お渡しする時につこり、そして、この間はどうもありがとうございます、につこり！と三度につこり出来るんですよ！と名言を残してくれました！しかし、これにも反省が生まれて久しいのです、四季折々の自然の美しい風景にレンズは向けるものの、生かしかれないのです。どうしても周囲に居る人に目が向いてしまうのです。いつの日か自然や静物と対話できる人に成りたい！と若い頃から思っていた居ましたが、未だレンズは人を追いかけております。振り返ると写真撮影での出会いの方々が、今の自分を支えて頂いている方々に成っております。

保育随想

★ 新しい年に向かって！

コロナ感染予防の諸々の対策で、幼児・児童の学習面も心身の成長も、コロナ禍以前と比較して遅れを心配する声が聞かれます。行動の規制、活動の規制は学ぶ機会を失うことでもありますので辛い3年間でした。只今は、第8波を迎え、感染に備える生活が続いております。去年、耳にしたのですが、このコロナ禍は令和5年の秋までは続くでしょう！と聞かされていたのですが、懸命な感染防止と対策を講じて居られる方々の努力も、効果も見えないままに現実のものとなる様相も呈しております。それでも、私たちは、保護者の皆様のご理解の中で、一つひとつの行事を経験して二学期の終業式を迎えることが出来ました。その間にも、陽性判定や発熱の知らせが入る度に、共に生活する子ども達や先生方の生活から、濃厚接触者の範囲を考え、園医や市役所、保健所の指示を仰いで、登園を自粛して頂いたりクラスの休園の措置もさせて頂きました。感染した方の普段と違う、いろいろな症状を聞くにつけても、苦しく生活に支障をきたしております。毎年はやるインフルエンザとは異なり、100年単位の感染症とも言われます。また、身の回りを見てもいろいろな初めての出来事も思い掛けない出来事にも遭遇されたことと思います。清水寺の官長さんが書かれる、今年の一文字は‘戦’でしたね！この時期に過ぎ去った一年を振り返り、私の一文字をひねり出してみませんか？大変だったこと、辛かったこと、そして、幸せだったこと、嬉しかったこと、お花を買いに行けましたか？家族と触れ合えましたか？健康に過ごせましたか？友達と会えましたか？頑張れましたか？幸せについて、不平や不満がなく、満ち足りている様子を指します。健康状態やお金、結婚しているかどうかに関係なく、毎日楽しく過ごしていれば幸福な状態と言えるでしょう！と定義付けている話があります。また、最も幸福な人のパターンとして、

- * 多くに時間を家族や友達と過ごし、その人間関係を大切に楽しんでいる。
- * 誰に対しても感謝を表すことが苦にならない。
- * 同僚や通りすがりの人にも、まっさきに手を差し伸べることが多い。
- * 未来を考えると、楽観的である。
- * 毎週、毎日のように体を動かす習慣が出来ている。
- * 人生の喜びを満喫し、「今」に生きようとしている。
- * 生涯にわたる夢や目標に全力を傾けている。
- * 困難に直面したときに対処する態度や強さを持っている。

始めたばかりで新しい行動や習慣がまだ自然なものに感じられない時には、最も力を注がなければなりません。とも言っております。そして、もっと幸福になりたいなら、スポーツをするように取り組まなければならない。例えば、筋トレのように、幸福になる力も鍛えて行くことが必要である。とあります。人生は山あり谷あり、来年は笑っていきましょう！

保育随想

★ 歩きだそう！

新年あけましておめでとうございます。明けて早々に1月も終わろうとしておりますが、新しい一年の幸せや無事を祈り初詣にもお出でに成ったのではないのでしょうか。

私はお正月二日の日に、幼稚園前の米島香取神社に普段お世話に成っているお礼と新年の生活が穏やかであるようにお参りを致しました。そして、昔から知り合いであります、氏子会の皆さんのところで、お札を買って回りましたが、一つのテント内に呼び込まれて昔話に花が咲く中で、神社本殿の前にお参りの順番を待つ、幾つものご家族の姿を拝見する機会を得ました。それぞれのご家族が心ひとつに、和気合い合いと談笑する様子に、ほのぼのしたものを感じ、それぞれのご家庭のお幸せをも願う、ひと時となりました。その後、5日の日には、幼稚園で共に働く男性諸氏とご縁の深い男性方14名で成田山へ初詣に参りました。その参加されたお一人お一人から、新年に向けての抱負をご披露頂きました。

人との関りがとても大事なんだ！自営なので、沢山の人が来てくれて、それが活力源に成っている！祖いて、置かれた場所で花を咲かせなさい！健康を維持する！足腰を鍛える！一生仕事をする。今を受け止めて生きる！継続は力なり！一步一步前向きに進んで！等々のお話しが述べられて聞き入りましたが、幸せな年に向けて、具体的なお話ではなかったかと思いました。どうやら幸せな年の原点は、一人ひとりと話すことに有るのではないかと思えるのです。

話を聞いて貰える人が周囲にいる。話をしてくれる人がいる。嬉しい時にもお落ち込んで居る時も、思い浮かぶ人がいることは救われます。それは家族であり、身近に居る人達です。その人達によって、自分は救われている！そして、救っている！神様へのお願い事は、自分への決め事を報告する機会なのかも知れませんが、口に出しても黙しても、はっきりと自分の気持ちを、形にする機会なのだと思います。私は、生きることの全てを本から学びました！その昔、中学校の国語の教師から、職員室で聞いたことがあります。直接、向かい合って言葉を交わすことは、心を交わすことです。心や思いは流動的だから、一層現実味を帯び、自分にも相手にも卓球のピンポン玉のように行き来できる中で、気持ちも動いて行けることは、私達も実感するところです。後で会話のやり取りや表情などゆっくり思い出しながら、落ち着いて自分の物に成る過程は、普段の生活の中で行っていることなのですが、良い一年にしよう！幸せを感じる生活は、案外、周囲の人から頂き、味あわせて貰える方法なのかと思うのです。漠然と幸せを求める願いも、成田山初詣の車中で吐露された具体的な目標も心情も、聞いて貰って守って頂けるのではないのでしょうか。周囲に居てくれる人は、そういう意味で神様！とまで言うとは過ぎるかと思いますが、間違いなく歩む道に何らかの影響を与えてくれる存在なのです。積極的に話を聞き、意欲的に話しをして、聞いて貰うことが、幸せな一年の始まりの第一歩に成るのだと思います。



第10号

令和5年2月28日

庄和すずらん幼稚園

保育随想

★ 春爛漫の空！

四季折々、私達は空を見上げて暮らして居ることに気付きます。もっと言えば毎日空を見上げて、生活スタイルも変えて暮らしております。そこで、自然の移り変わりも感じながら生きて居ります。この弥生3月の空は、季節が変わる節目でもあります。三寒四温を繰り返しながら季節が入れ替わる時で、私たちの生活にも卒園を迎える人が居たり、働く環境が変わる人がおります。また入園を迎えるにあたり準備を行って、集団生活が始まる人がおります。

私どもの世界だけでなく、こうして組織や社会全体も少しずつ変わって行き、過去を受け継ぎながら新しい時代が創り出されるのも、自然の摂理に近いものがあります。

ある人が桜の花芽は夏には形を成しながら、秋には休眠している。そこから桜が見事に開花するには、条件があり、すなわち、休眠中の花芽が、厳しい冬の寒さにしっかりと、さらされなければいけない。いわば寒気こそ花芽を、つぼみへと促し、満開の日を演出するのであります。そして、はらはらと舞う花びら一枚もそうした過程を経てのものとは、自然の摂理に只々驚く！と申しております。

先日の幼稚園での一日入園の折にも、今までの成長からも沢山の喜びを貰って過ごされたことと思いますが、私たちがそうであったように、子どもたち同士で育ち合い支え合い、そして、一年間の季節の変化の中で自然と関わる生活！これらの活動がすべて意欲につながる！これからの幼稚園での生活は楽しみですね！そして、成長を応援して参りましょう！とお話しさせて頂きました。

一方で、精一杯のご家族からの応援を貰って幼稚園生活を送れた年長組の子ども達も幼稚園生生活も、残すところ2週間余りに成っておりますが、ご本人たちにとっては、幼稚園が楽しかった！と思えることで宜しいのかともいます。一生懸命に出来たこと、友達と楽しい生活を送れたこと、様々な収穫を伴った経験や活動が、数限りなく喜びにつながって居ることでしょう！そして、次の社会、小学校生活へ希望をもって飛び込んで行ってくれることでしょう！大人に成っても言われますが、置かれたところで花を咲かせましょう！の言葉通り、生きることの全てを幼稚園で学んだ人達ですから、見事に花を咲かせてくれることでしょう！楽しい生活の中で精一杯生きられることでしょう！生涯にわたって、幾度も幾度も春を迎えます。初めての事にも出会うでしょう。それでも楽しい！と思える気持ちを抱ける精神は、お家の人のたゆまぬ応援と支えて貰えた賜物です。沢山遊びこんだ、いろいろな経験を積んで力を付けた卒園生が、次なる社会、小学校に出発する姿は、これも自然界同様、春爛漫と申し上げてお祝いいたします。

本年度の保育便りは、最終号に成ります。一年間のご購読ありがとうございました。